

# 掲載内容の訂正とお詫び

国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査マニュアル改訂第4版、第22刷～24刷におきまして、本文中に誤りがありました。

お詫びを申し上げますとともに、下記の通り訂正いたします。

---

## P153 第9章 基礎的プロセス

### 2. 聴覚的記憶力 (AMS)

【適応】 記号形式－指示内容関係、段階 3-1 を段階 3-2 に修正

## P174 第2部 検査の実施手続き

### (3) 他の諸検査結果の参照 表 11-5

PVT-R 絵画語い発達検査 対象年齢、3歳～10歳を3歳0か月～12歳3か月に修正  
検査名 WISC-R を WISC-IV に修正

## P285 文献

第9章 基礎的プロセス 文献 1)、2)、3) 修正

第11章 サマリーの記入方法 文献 3)、4)、7)、9) 修正

---

こちらの訂正文書と同じ内容のPDFを弊社HPよりダウンロードいただけます。

PCは下記URL、スマートフォン等では右記QRコードにてアクセスをお願いします。

エスコアール HP <https://escor.co.jp/>



【適応】

事物の永続性, 小球入れが可能であった子ども。

【検査教具】

クレヨンまたは鉛筆, 紙を用いる。

【手続き】

子どもに鉛筆またはクレヨンと紙を渡し, セラピストの描いた線や図形を見せ, 「同じに書いてごらん」と言う。子どもがセラピストの描いた図形を模写する。セラピストが描いているところは子どもに見せないようにする。

【発達年齢との対照】

各課題の発達年齢との対照を表9-5に示す。

表9-5 描線の発達年齢との対応

課題	発達年齢との対照
点々	1:0~1:5
円錯画	1:6~1:8
縦線	2:0~2:5
横線	2:0~2:5
円	2:6~2:11
十字	2:6~2:11
□	3:6~4:0
△	4:6~4:11
菱形	6:0~6:5

## 2. 聴覚的記憶力 (AMS)

単語の聴覚的記憶力 (Auditory Memory Span) を検査する。表9-5聴覚的記憶力の手続きを参照。

【適応】

記号形式-指示内容関係の段階3-2 (音声記号) で絵カードの選択がセットF, G, またはセットHで可能な子どもを対象とする。

【実施順序】

2単位→3単位の順で行う。

【検査教具】

事物の名称の16語絵カードのうち, くつ, 電話, 帽子, ご飯, パン, 犬, 象, 飛行機, 車の9枚。

【検査フォーム】

No.9 (基礎的プロセス)

2. 生活年齢(横軸)と発達年齢(縦軸)がクロスする点をグラフにプロットし、この点と原点を点線で結ぶ。

### (g) 「6. 個体内プロフィール」

生活年齢、動作性課題、言語記号の受信・発信それぞれの発達年齢をプロットし実線で結ぶ。

#### 1. 動作性課題

サマリー<2>、および表11-4を参考に図形の弁別、積木の構成、描線の検査結果を総合した発達年齢をプロットする。発達年齢1歳以下、あるいは3~4歳以上、および図形の弁別、積木の構成、描線の各検査結果のばらつきが大きい場合などは他の諸検査の結果も参考にプロットする((3)「他の諸検査結果の参照」を参照)。

#### 2. 言語記号の受信

「5. 記号形式-指示内容関係の受信面の発達段階」のグラフで記入した発達年齢をプロットする。

#### 3. 言語記号の発信

サマリー<2>の発信における「発達年齢との対照」欄、および表11-3を参考に発信面の発達年齢をプロットする。事物名称(絵カード)の検査に進めなかった場合や有意味語が0語だった場合は、他の発達検査を参考とし発達年齢は0歳~1歳半にプロットする((3)「他の諸検査結果の参照」を参照)。

### (3) 他の諸検査結果の参照

本検査では、標準との比較は絵カードを用いた語彙・語連鎖検査について言語発達年齢との対応としては得られるが、いわゆる発達年齢や発達指数は算出できない。標準との比較が必要な場合には、適宜他の検査結果を参照する(表11-5)。低年齢(発達年齢0歳~)では遠城寺式乳幼児分析的発達検査法や新版K式発達検査2001, 2~5.6歳以上ではWPPSI-IIIまたはWISC-IV, PVT-R(絵画語い発達検査)も併用する(発達・知能検査は公認心理師等による実施が望ましい)。

表 11-5 参考とする他の検査

名称	出版元	対象年齢
PVT-R 絵画語い発達検査 <sup>3)</sup>	日本文化科学社	3歳0か月~12歳3か月
ITPA 言語学習能力診断検査 <sup>4)</sup> ※検査用紙のみ2022年3月まで販売	日本文化科学社	3歳~9歳11か月
遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法 (九州大学小児科改訂新装版) <sup>1)</sup>	慶応義塾大学出版会	0歳~4歳7か月
(津守)乳幼児精神発達診断法 <sup>5), 6)</sup>	大日本図書	1か月~12か月 1歳~3歳 3歳~7歳
新版K式発達検査2001 <sup>2)</sup>	京都国際社会福祉センター	0歳~成人
田中ビネー知能検査V(ファイブ)* <sup>7)</sup>	田研出版	2歳~成人
WPPSI-III* <sup>8)</sup> WISC-IV* <sup>9)</sup>	日本文化科学社	2歳6か月~7歳3か月 5歳0か月~16歳11か月

\*: 公認心理師等が施行することが望ましい。

- 1)小寺富子,鹿取廣人,藤田修成:重度言語遅滞児への治療訓練的アプローチその5 音声表現が言語理解に先行した症例N. M. への働きかけ.国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要,9:11-23,1988.
- 2)前掲 第1章 14)
- 3)World Health Organization;中根允文,岡崎祐士,藤原妙子訳:ICD-10 精神および行動の障害 — DCR 研究用基準—. 医学書院,東京,1994.
- 4)American Psychiatric Association;高橋三郎,大野裕,染矢俊幸訳:DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引. 医学書院,東京,1995.
- 5)飯塚直美,佐竹恒夫,伊藤淳子,東川健:症状分類B群(音声発信困難)リスク児について.音声言語医学,35:240-254,1994.
- 6)林耕司:図形シンボルで表出手段を一時的に代替し発語を獲得するに至った症例.音声言語医学,35:171-180,1994.
- 7)佐竹恒夫,飯塚直美,伊藤淳子,東川健:症状分類B群(音声発信困難)の1類型 発信行動習得モデルによる分析の試み.音声言語医学,34:354-373,1993.
- 8)知念洋美,佐竹恒夫:知的障害を有する1脳性麻痺児の発信行動の習得過程について.音声言語医学,37:196-205,1996.

## 第9章 基礎的プロセス

- 1)生澤雅夫,松下裕,中瀬惇:新版K式発達検査2001,京都国際社会福祉センター発達研究所,京都,2002.
- 2)日本版WPPSI-III刊行委員会(大六一志,渡辺弥生):WPPSI-III知能検査.日本文化科学社,東京,2017.
- 3)遠城寺宗徳,合屋長英ほか:遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法(九州大学小児科改訂新装版).慶応義塾大学出版会,東京,2009.

## 第11章 サマリーの記入方法

- 1)前掲 第9章 3)
- 2)前掲 第9章 1)
- 3)上野一彦,名越斉子,小貫悟:PVT-R 絵画語い発達検査.日本文化科学社,東京,2008.
- 4)旭出学園教育研究所(上野一彦他):ITPA 言語学習能力診断検査—1993改訂版—.日本文化科学社,東京,1993.
- 5)津守真,稲毛敦子:乳幼児精神発達診断法 増補 0才～3才まで.大日本図書,東京,1995.
- 6)津守真,磯部貴子:乳幼児精神発達診断法 3才～7才まで.大日本図書,東京,1965.
- 7)田中教育研究所:田中ビネー知能検査V(ファイブ).田研出版,東京,2003.
- 8)前掲 第9章 2)
- 9)上野一彦,藤田和弘,前川久男,石隈利紀,大六一志,松田修:WISC-IV知能検査.日本文化科学社,東京,2010.